

その いずみの園だより vol. 54

2012. 4. 25

春季号



それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大なるものは愛である。 コリントの信徒への手紙 I 13:13

基本理念

神と人にと仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする

①アメニティ(快適主義) ②ヒューマニティ(人間主義) ③ローカリティ(地域主義)

社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団
介護保険総合ケアセンターいずみの園

〒871-0162 大分県中津市永添 2744 TEL0979-23-1616 (代)
http://www.izuminosono.jp E-mail:sogocare@deluxe.ocn.ne.jp

ISO9001 認証取得



2002年3月26日
高齢者介護及び
リハビリテーションサービス



事業所内保育施設 マリアガーデン

写真撮影: Y.Harigane (Techni Staff)

天真爛漫な子どもの笑顔



社会福祉法人九州キリスト教
社会福祉事業団 理事長
介護保険総合ケアセンター
いずみの園 施設長

富永健司

この4月1日、ワークライフバランス計画の一環として、事業所内保育施設「マリアガーデン」が完成しました。職員数が300人を超え、長年の念願となりました。また年に一回「こども参観日」を設定し、職員の子どもたちが介護の現場を体験しています。「すごいと思った。だからぼくもがんばろうと思った。」5年生の男の子の感想です。

今、国会では社会保障と税の一体改革が熱心に議論されていますが、今回の社会保障制度改革の焦点は児童問題です。これまでの年金、医療、介護に加え「未来への投資、子ども・子育て支援の強化」を4本目の社会保障の柱としています。少子高齢社会が急激に進展する中で、労働力減、人口減は今後の社会経済に深刻な影響をもたらし、今や子ども、若者対策は国民的課題となっています。福祉目的税としての消費増税は、天真爛漫な子どもの笑顔への必要経費ととらえたいものです。

この4月にスタートした国の第5期介護保険事業計画の骨子は、「地域包括ケアシステム」です。中学校区くらいの生活圏域を単位として、住まい、介護、医療、予防、生活支援サービスを24時間365日、包括的、継続的に提供しようというものです。その地域に認知症のお年寄りが何人いて独居老人が何人、そして老人だけでなく、障がい者の様子も大体分かります。民生委員さんの顔も知っているし、近くのデイサービスセンターや診療所も歩いて行ける範囲にあり、いずみの園のケアマネジャー、ヘルパーさんは近所の人気者、そういう隣保班の距離感です。そんな町内には、虐待死や孤独死はありません。

2012年度 いずみの園基本方針

◆生涯安心・いずみの園「新5か年プラン」◆

基本理念 「キリスト教の愛と奉仕の実践」

モットー 「信・望・愛」

本年4月、国の第5期介護保険事業計画がスタートする。団塊の世代が後期高齢者に入る2025年までに、中学校区を単位に「住まい、予防、介護、医療、生活支援サービス」を包括的継続的に提供する「地域包括ケアシステム」を完成させるという。

一方、政府は財政基盤確保のため「社会保障と税の一体的改革」の議論を本格的に進めている。年金、医療、介護の社会保障制度の転換期を迎え、また社会福祉法人の見直しが行われるなかで、いずみの園は社会福祉法人としての公益性、独自性、先駆性を堅持し、これからの10年を展望しつつ「新5か年プラン」を策定する。

1. 新5か年プラン

①「中津総合ケアセンターいずみの園」構想

国がすすめる地域包括ケアシステムを推進し、高齢者、障がい者、児童、母子、貧困など地域の福祉ニーズ全般に対応できる総合ケアセンターを目指す。

- ・地域包括ケアシステムの推進
- ・24時間対応サービスの充実
- ・事業の多角化、総合化を図る
- ・行政・地域との連携の強化
- ・地域コミュニティの拠点化

②「障がい事業」の開発

- ・多機能型一就労支援事業A・B型（ワークセンター）
- ・グループホーム
- ・道の駅型販売店

③共生型「かきざサポートセンター」事業の推進

- ・高齢者・障がい事業、児童クラブ
- ・地域交流スペース、障がい事業所(分場)
- ・日中一時支援事業
- ・小規模特養の研究

④新規事業の開発

- ・中央サポートセンター開設
- ・デイサービスセンター北堀川開設
- ・低所得者対策の研究
- ・今津サポートセンターの調査、研究

⑤事業団組織・機構改革

- ・法人本部機能の強化
- ・(社福)栄光園との連携の強化
- ・EFC(栄光園ファミリークラブ)の推進
- ・5保育園(所)の連絡協議会
- ・いずみの園の機構改革
- ・各事業部門の自律的経営
- ・(中間)管理職の育成
- ・いずみの園新人考課制度の試行

⑥サービスの質の確保

- ・科学的介護「ISO9001」の推進
- ・サービスコンセプトの推進
 - ①アメニティ(快適主義-快適なサービス、マナー)
 - ②ヒューマニティ(人間主義-一人としての尊厳性を守る)
 - ③ローカリティ(地域主義-地域密着型事業)
- ・ホスピタリティ「もてなしの心」-良きサマリア人(聖書)
- ・感動を呼ぶサービス、スピリチュアルケア(心に触れるケア)

⑦ワークライフバランス

- ・働き甲斐のある職場づくり
- ・事業所内保育施設「マリアガーデン」の設置
- ・リフレッシュ休暇(5連休)、年休消化の推進

2. 本年度の重点課題

- ①地域包括ケアシステムの推進
- ②デイサービスセンター北堀川の事業開始(4月)
中央サポートセンターの事業開始(6月)
- ③障がい事業の研究、開発
 - ・ワークセンターの設置
 - ・グループホーム(6人定員)補助金申請
- ④(社福)栄光園との連携
- ⑤ワークライフバランスの推進

2011年度 第4回法人理事会・評議員会報告

12012年度事業計画、予算案などの審議が行われ、原案通り採決されました。

3月26日(月)10時30分から法人評議員会が14時から理事会が開かれました。議案は別記のとおりですが、新年度に向けて方針が決定されました。

また、評議員として袖澗三枝子氏(聖愛ホーム長)が退任され、後任に稲益一男氏(造園会社社長)が理事会で選任されました。

議題は第1号・人事に関する件、第2号・2011年度会計補正予算に関する件、第3号・2012年度事業計画(案)に関する件、第4号・5号・新規事業に関する件、第6号・2012年度予算(案)に関する件、第7号・指導監査結果報告、第8号・規程改正に関する件、第9号・報告事項「マリアガーデン(事業所内保育施設)の完成に関する件等でした。(法人本部事務局)

2012年度 組織関係

- ①新設
 - 4月 1日付 在宅サービス事業部 かきざサポートセンター デイサービス北堀川
- ②廃止
 - 4月 1日付 総務部 カウンセラー室

人事関係 (部名は省略) 2011年12月1日以降

- ①異動役職者
 - 4月 1日付 堤 健生 ケアマンション聖愛ホーム ホーム長兼チャレン
吉川美智代 デイサービス北堀川 主任
- ②異動一般職

12月 1日付	古賀 裕明	かきざグループホーム	介護員
1月 1日付	小野 由里	かきざグループホーム	介護員
2月 15日付	中西 幸子	訪問看護課	看護師
3月 1日付	富永 和子	デイサービスかきざ	介護員
4月 1日付	西 洋嗣	経営企画室	事務員
	前田 直美	マリアガーデン	保育士
	橋本 晃一	デイサービス北堀川	介護員
	長門 真理	デイサービス北堀川	介護員
	富永 和子	デイサービス北堀川	介護員
	馬場 末子	デイサービス北堀川	看護師
	井関 康子	デイサービス北堀川	看護師
	渡辺 順子	デイサービスかきざ	生活相談員兼介護員
	是石美和子	介護課	介護員
- ③新採用

12月 1日付	楠木 忠秋	寄り合いセンターいずみ	介護員
	村本 昌子	訪問看護課	ヘルパー
12月 6日付	村上 翔	デイサービスかきざ	介護員
12月 8日付	小畑 恵子	訪問看護課	ヘルパー
	園 恵美子	訪問看護課	ヘルパー
	久保ヒサ子	訪問看護課	ヘルパー
12月 12日付	竹内 規之	看護課	看護師
1月 1日付	藤田 智美	かきざグループホーム	介護員
2月 1日付	加来久仁弘	デイサービスかきざ	介護員
2月 15日付	井関 康子	デイサービスかきざ	看護師
3月 1日付	竹本 美喜	デイサービスふれあい館	看護師
	馬場 末子	デイサービスかきざ	看護師
	馬場 靖子	デイサービスふれんど館	介護員
4月 1日付	金尾 瑛理	介護課	介護員
	山本 恭平	介護課	介護員
	岡部 浩一郎	介護課	介護員
	安賀 渚	かきざグループホーム	介護員
	松永のぞみ	総務課	事務員
	生地 茜	デイサービスかきざ	介護員
	屋崎 玲子	リハビリセンター	作業療法士
	大土優之介	総務課	事務員
	中村 寿孝	寄り合いセンターいずみ	介護員
	村井佳代子	看護課	看護師
	三原 萌華	介護課	介護員
	新庄 千春	地域包括支援センター	介護支援専門員
	甲斐 梓	マリアガーデン	保育士
	湯元 睦美	マリアガーデン	保育士

(以上2012年4月1日まで)

退職挨拶

32年6ヶ月の勤務を終え定年退職致しました。在職中は神様のお守りと多くの皆様のお支えをいただき心から感謝申し上げます。

(前ケアマンション聖愛ホーム長) 袖澗三枝子

当園の障がい事業（就労の場・住まいの確保）に向けての準備

当法人はこれまで34年にわたり、保育園、高齢者介護施設・在宅事業を中心に事業を展開してきましたが、障がい関係については相談支援事業（エマオ）やデイサービス（かきせ）、支援日中一時支援事業（マルコ）・障がいのある生徒向けの児童クラブ）に取り組んできました。

今般、こうした事業に加え、障がいのある人が働くことによって賃金を得、健全な人と同様にやる気と生きがいを持ち、社会の一員として生活していく就労支援を当園も2013年度より行うことを予定しています。

具体的には、大分県・中津市と協議し、1年後には障がいをもつ人の働く場を、さらに2014年4月には居住の場の確保を図る事業を小さな規模から開始するための『準備班』を「いずみの園」経営企画室に設けました。具体的には就労継続支援事業（多機能型・定員20名）のためのワークセンターや共同生活援助事業（グループホーム・定員6名）の開始をめざし取り組んでいくこととなります。今後、中津市内の先輩事業所のご助言・ご協力をいただきながら準備を進めてまいりたいと思っております。

経営企画室（障がい事業準備班）

【理事長のコメント】

これからの法人の課題は、これまで以上に地域の人と連携しながら地域を支えていくことが重要と考えています。児童、高齢者事業に加え、長年考えてきた障がいのある人への就労事業にも取り組み、福祉全般に応えられる法人にして、利用される方々に「いずみの園を使ってよかった」と言われるようにして参りたい。



「日中一時支援事業所マルコ」発足より1年

デイサービスセンターかきせ 主任 今永 弘枝

かきせサポートセンター内「日中一時支援事業所マルコ」は、昨年2011年4月に開設され、4月で1年を迎えました。

中津商業高校跡地に、大分県立宇佐支援学校の中津校ができ、保護者の就労や社会参加が円滑にできるようになり、又レスパイト（介護者の息抜き）の支援ができればと取り組んでいます。

1日の利用定員は5名ですが、現在の登録人数は7名で、1日平均利用人数は2〜3名です。中津校に通う小学部・中学部・高等部の他に、3歳の幼児も利用しています。

気持ちを伝える事が困難な子どももいますが、1年が経過し子ども達の表情や、ジェスチャーで伝えたいことが、分かるようになってきました。子ども達の純粋で屈託のない笑顔に力もらいながら、日々、関わりを持たせて頂いています。

かきせサポートセンターの特徴でもある

高齢者や児童・職員・ボランティアさんなど、様々な人たちが過ごす空間が、人の関わりや、地域で暮らす力になればと考えています。



24時間地域巡回型・随時対応サービス モデル事業終了のご報告

訪問介護課 課長 山本さつき

2010年度2月3月の2ヶ月と2011年度4月〜3月までの1年間通算14ヶ月のモデル事業が、当初の計画通り2012年3月31日に無事終了いたしました。

この事業は厚生労働省モデル事業で、中津市より委託を受け介護保険第5期事業計画に新設される『地域密着型サービス定期巡回・随時対応型訪問介護看護の検証作業を行い、新規サービスの課題や改善方法またサービス内容の検討を行い、ご利用者にとって効果的で利便性のあるサービスであることを実証するものです。

実績報告では

- ① 年間延対象者は320名/月平均26名
- ② 定期訪問は5876回/月平均489回
- ③ 緊急の随時訪問は69回
- ④ 相談コールは78回
- ⑤ 平均介護度2.4度
- ⑥ 緊急コールから自宅訪問までの所要時間は平均14.3分と早い訪問ができました。

1日複数回訪問することで、入院を繰り返していた高齢者の入院回数が減少し在宅生活の継続が叶いました。食事の確保、水分補給等が困難な方の異常を定期巡回により早期発見し、となりの課の訪問看護師との連携により、重篤な状態の回避ができました。また、認知症状のある方も日常生活を見守りながらその方の生活に寄り添った支援を行うことで、安心して穏やかな在宅生活の継続ができた



緊急コールでの随時訪問は、オペレーションシステムと訪問看護師・医療との連携がスムーズに行え、緊急時の対応ができました。

「住み慣れたわが家で、地域で暮らしたい」と願う高齢者の皆様が、安心して安全な生活が継続できるように、このモデル事業で経験したことを十分に活かしながら、新設サービスの『定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス』が、今後増加する高齢者の方々のニーズに対応できる、在宅サービスの中心的なものになることを確信しました。

また、この1年間で北海道から鹿児島県までの全国各地からの多くの事業者が視察に來られ、中津方式の事業展開に関心を示されましたことも有意義であったと思います。

最後にモデル事業にご理解、ご協力していただきましたご利用者とそのご家族、関係機関の皆様深く感謝申し上げます。

いずみの園広場

在宅介護利用者の声



デイサービスセンターかきぜ

ご利用者 吉富 次夫様

昨年、妻が亡くなり、娘夫婦から勧められてデイサービスセンターかきぜを利用させて頂いて頂いています。目が不自由な上に耳も遠くなり最初は不安でした。しかしスタッフの方々が細やかにお世話をして下さり、すぐに心配は解消されました。入浴後のリハビリやレクリエーション等で、体調がどんどん快くなっていく気がします。頼りになるスタッフの方々のお陰だと深く感謝しています。

他の利用者の方達とも知り合いになり楽しく話が弾み世界が広がりました。今では週2回の利用の日が待ち遠しいほどです。昼の食事は美味しく、少食の私が完食してしまい太りました。家に帰るとセンターでの楽しい出来ごとを家族や近所の人に話します。行って良かったねと、喜んでくれます。

今後、ますます高齢者が増えます。園の発展をお祈り致しております。これからも宜しくお願ひ申し上げます。



在宅介護利用者の声



リハビリセンターいずみ

ご利用者 山本 照夫様

私が脳梗塞と診断されたのは平成13年だから、もう10年も前になります。当時入院していた病院でいずみの園にリハビリセンターが新設されるといふニュースを聞いて家族はすぐに利用を希望し、申し込み、完成を待ち望みました。幸い希望がかない通所できるようになりました。脳梗塞による障がいは左半身麻痺で、左足に装具を付けないと足で体を支えて立つことが出来ない状態で、さらに右手には杖をつかねばバランスがとれず、歩行がとても不自由でした。一日歩いて装具をはずすと足は多少むくんでいて、装具のくいこんだ跡もくつきり残るほどになります。しかし、歩かないと筋力が衰え歩けなくなるようになっては大変ですので、がんばって筋力をつけなければなりません。それに脳梗塞は再発することもあるとも聞いて、何としても再発をしないように健康維持にも心がけねばならないと感じていました。

冬期になると障がいにより朝方は、手も足も極端に冷えて氷にさわるように冷たくなり、手足ともかなりの重量を感じるようになってベッドから起き上がるのも容易ではない状態でした。

リハビリセンターでは、毎日個人ごとに訓練メニューが決まっています。各自の計画に従って、機器を使つての訓練もあれば、療法士による各障がいのリハビリ訓練を受けられます。各療法士やスタッフにエキスパートの方々がいまして各自の障がいに応じて適切な訓練リハビリを実施して下さいます。

リハビリで大切なことは、各自が自分がこうなりたいという目標をしっかりと持って粘り強く継続して障がいを回復させることです。それをやりぬいた方は、センターを卒業して自宅へ戻られたり、中には職場復帰した方も多々おられます。

